

第41回多摩川流域セミナー まるごと多摩川まつり 「広げてつなごう、川づくりの輪」

～はぐくもう、多摩川の絆～ 開催報告

1. 概要

- 日時：2013年10月20日（日）10：00～15：00（雨天）
- 場所：二ヶ領せせらぎ館（登戸駅徒歩10分）
- 参加人数：全120人（一般参加者88名、スタッフ32名）

2. プログラム

いい川づくり発表会：10：00～12：00

多摩川流域で活動する市民、学生、企業、行政による“いい川づくり”の発表

総合司会：佐山 公一（TB ネット）

- ① 開会挨拶：中村 文明（TB ネット代表、多摩川流域懇談会運営委員会委員長）
- ② 発表：いい川づくり発表 ～多摩川の現在とこれから～

<市民の部>

- ・日野市環境情報センター かわせみ館（笹木 延吉氏）

「市民と行政が協働で取り組んできた「日野の水辺づくり」

<学生の部>

- ・法政大学（海老原 翔太氏） 「青空工作室」
- ・明治大学（松本 薫氏） 「黒川農場の雑木林の更新手法の検討」
- ・東京都市大学（松井 彩華氏） 「多摩川における時空的な水質変動に関する研究」
（武田 翔洋氏 吉田 翔氏）「多摩川における有機汚濁物質の特性」
～～（休憩）～～

<企業の部>

- ・サントリー（松倉 隆氏） 「天然水の森づくり」
- ・ミツカン（後藤 喜晃氏） 「里川文化塾」

<行政の部>

- ・国土交通省京浜河川事務所（尾崎 武志係長） 「多摩川の川づくり」

- ③ まとめ：佐山 公一（TB ネット）

- ④ 閉会の言葉：船橋 昇治（国土交通省京浜河川事務所長）

いい川づくり交流ひろば：10：00～15：00

多摩川で活動する市民団体、学生、企業、流域の自治体、河川管理者がブースやパネルを出展

- ・多摩川流域で採れた食材で作った多摩川鍋
- ・多摩川もの知り検定
- ・みんなで作る多摩川地図
- ・パネル展示

3. いい川づくり発表会

午前中からあいにくの雨となりましたが、発表会終了時には、60名を超える方々のご参加がありました。参加者のみなさんは、熱心に発表に耳を傾けていました。

以下に、当日の発表の概要をご紹介します。

3.1 開会挨拶：中村 文明（TB ネット代表、多摩川流域懇談会運営委員会委員長）

- ・今回は、「広げてつなごう、川づくりの輪」というテーマでいい川づくりについて発表してもらいます。1階では、いい川づくりの交流広場とし、みんなでつくりあげる多摩川マップを作成するコーナーなど、流域市民が多摩川に触れあえる取り組みも開催しています。
- ・2014年2月9日には第42回セミナーが開催される予定であり、継続して多摩川マップを作成してもらおう取り組みを続けていきたいと思っています。



挨拶をする中村さん

3.2 発表

(1) 市民の部： 日野市環境情報センター かわせみ館 （笹木 延吉氏）

「市民と行政が協働で取り組んできた「日野の水辺づくり」」

【発表概要】

- ・ 30 年前から、水辺の楽校、田んぼ、雑木林を中心に日野市の水辺づくりに取り組んできました。
- ・ 日野市にある 126km の用水路を市民によって調査・確認し、平成 2 年度から用水路を保全する活動に取り組んできました。例えば、本来圃場整備で用水路が壊されるはずであった場所を、水田や用水路として残したり、また、コンクリート張りの水路を壊して、トンボ池やワンドを設置したりした結果、魚類の種数が増加しました。
- ・ このほか、日野用水の開渠化や平成 9 年の護岸工事時にはホトケドジョウの保護活動、浅川では透水性低水護岸を設置し植生を保全する活動を実施してきました。

【会場からの質問】

Q：湧水の活動についてお聞きかせください。

A：市内に 150 箇所湧水が存在し、条例によって湧水を保全していこうと思っています。



笹木さんの発表中の様子



質問する参加者

(2) 学生の部

1) 法政大学（海老原 翔太氏） 「青空工作室」

【発表概要】

- ・これまで小菅村で実施してきたワークショップ、ボランティア活動についてご紹介します。
- ・小菅村は、釣り、温泉、祭りなど多くの資源がある一方、少子高齢化や森林荒廃が問題となっています。特に、少子高齢化は問題であり、人手不足により、さらに森林荒廃が進むのが現状です。
- ・学生有志団体「sora」によって、地域イベントの参加や、「sora」の活動拠点である“ものづくりや小屋”の改修作業などを行っており、このような活動を通じて村を活性化したいと思っています。
- ・特に、活動は村のニーズと学生のニーズが一致した内容を実施することを念頭に、例えば、小菅村最大の祭りである多摩川源流まつりでボランティア活動を実施したり、使用していない駐車場を広場として利用し、かつて使われていた炭焼き釜を小菅村に残る歴史と資源、新しい技術を使いアースオープンとして復活させることや、労力が少なく済む皮むき間伐※といった活動を実施してきました。
- ・今後は、使用していない材木の販売ルートの形成といった木材流通の改善の検討を実施したいと考えています。

※皮むき間伐：間伐する樹木の皮を剥いで、切り倒す前に樹木を立ち枯れさせます。切り出す際には木が軽くなり、作業性も良くなります。

【会場からの質問】

Q：活動後、学生の意識の変化はありましたか？

A：一度活動に参加した学生は、その後、継続的に参加してくれるようになり、いろいろ提案してくれるようになりました。

Q：他の大学との連携はありますか？

A：他の大学やOBの方々、親などの関係者が加わるなど参加者が増えています。



発表中の海老原さん



参加者のみなさま

2) 明治大学（松本 薫氏） 「黒川農場の雑木林の更新手法の検討」

【発表概要】

- ・黒川農場の雑木林の更新についての研究をご紹介します。
- ・雑木林と川のつながりをみると、多摩川の中流域の水源は、丘陵地の雑木林です。雑木林は、昔、伐採され人々に利用されてきましたが、現在の雑木林は、放置された結果、常緑樹が増加し植物の種数の減少や、樹木の大径木化によるナラ枯れが問題となっています。
- ・このような状況では、雑木林の更新が必要となることから、本研究では、萌芽更新(高齢化した樹木を切り、切り株から出る芽を育てて雑木林の若返りを図る)について調査を実施しています。調査結果から、樹木が高齢化し大径木が起り、萌芽能力が低くなっていることが分かりました。その結果、雑木林の密度が小さくなっているため、コナラの種子を蒔いて発芽や生育状況を調査する播種試験を実施しています。今後さらに、播種試験の調査結果を用いて、検討を行いたいと思っています。

【会場からの質問】

Q：萌芽更新で樹木が成長するためには、長い年月がかかりますが、ある程度成長した木を植える方法は検討しないのでしょうか？

A：種子や萌芽、ある程度成長した木も含めて、検討していきたいと思っています。

Q：研究をしながら、黒川農場の雑木林の萌芽更新を実践して行ってほしいと思います。また、チップ材の利用を検討してほしいです。

A：黒川農場の雑木林で萌芽更新を実践したいと考えています。また、物質循環を理解するためにも、チップ材の利用をしていきたいと思っています。



発表中の松本さん

3) 東京都市大学

【発表概要】

(松井 彩華氏) 「多摩川における時空間的な水質変動に関する研究」

- ・多摩川流域の COD (化学的酸素要求量)、N (窒素) の時間的・空間的変動を調べ、土地利用を明らかにし、その関連性を把握することを目的に、上流から下流までの地点で、水質調査を実施しました。
- ・その結果、11、2、3 月の流量が少ない時季の COD が環境基準を超過していました。原因として、冬に河川の流量が少ないことが起因していると考えられます。また、上流から下流に向かって、イオンの濃度が高くなっていましたが、これは、流域の人口密度との関連性が考えられます。

(武田 翔洋氏 吉田 翔氏) 「多摩川における有機汚濁物質の特性」

- ・現在、東京湾では、BOD (生物化学的酸素要求量) は低下しつつあるが、COD が増加しつつあります。このような背景の下、東京湾の主要な流入河川である多摩川流域の BOD、COD、DOC (溶存有機炭素量)、難分解性有機物 (COD から BOD を引いたもの) について研究しています。
- ・調査の結果、多摩川の COD は、東京湾の COD の環境基準を上回っている結果となりました。多摩川の水質が、東京湾の COD の増加要因の 1 つと考えられます。
- ・今後、BOD と COD の相関関係および季節的变化を見ていきたいと思っています。

【会場からの質問】

Q : 水質だけではなく、魚類、水生昆虫類などの生物の観点、家庭排水の発生源からも研究を進めてほしいと思います。

A : 今後、生物や家庭排水の発生源についても調査していきたいと思っています。

Q : かつて多摩川の汚染の大きな原因であった野川との関連性も見てほしいと思います。

A : 支流の野川との関連性をみていきたいと思っています。

Q : TN (全窒素) について調査はしていないのでしょうか？

A : 現在、TN の分析用のサンプルを集めています。



発表中の松井さん



東京都市大学のみなさま

(3) 企業の部

1) サントリー（松倉 隆氏） 「天然水の森づくり」

【発表概要】

- ・サントリーの製品を作るには、良質な水が欠かせないため、水源森林保全活動を実施しています。
- ・2003年から現在まで、水の持続可能性を目指して、全国13都道府県、17箇所では7,600haの天然水の森づくりを行っています。
- ・多摩川流域の天然水の森は、東京農業大学の奥多摩演習林、小菅村、奥多摩にあります。
- ・具体的な活動としては、間伐作業、作業用道路の設置、天然林の育成などを実施しています。また、航空レーザー計測によって、現場に行かなくても、現地の状況や歩道の把握をしています。
- ・例えば、東京農業大学の奥多摩演習林については、スギ・ヒノキ、広葉樹の植樹や社員の意識の向上を目指して、社員による森林整備体験などを実施しています。
- ・また、森林問題である獣害問題やナラ枯れについては、学識者からアドバイスをもらいながら、対応しています。
- ・今後も、東京農業大学の多摩源流大学なども通じて、多摩川と関わっていきたいと思います。

【会場からの質問】

Q：森林の地権者と御社との契約はどのように行っているのでしょうか？

A：森林を再生するために、最低30年は必要であるため、30年間の契約を行っています。森林を整備させてもらっているだけで、地権者から土地は購入していません。また、木材を伐採した場合は、地権者に譲渡します。

Q：シカの食害対策はどのように実施しているのですか？

A：地元の猟友会や県に依頼して、捕獲に努めています。

Q：シカが食べないアセビで森林を囲う対策はどうでしょうか？

A：その対策については検討中です。ただし、応急的な対策が必要なので、シカ柵を設置しています。

Q：間伐した木の処理はどのように行っているのですか？

A：急傾斜地で土留めに利用したり、良質な間伐材は搬出して材木業者に渡しています。



発表中の松倉さん



熱心に聞いている参加者のみなさま

2) ミツカン（後藤 喜晃氏） 「里川文化塾」

【発表概要】

- ・年 6 回、里川文化塾を開催し、フィールドワークを通じて、人とのネットワークを構築しながら、水の大切さを伝えるとともに、「水の文化」という機関誌をつくりその成果を発信しています。
- ・平成 24 年に二ヶ領用水でフィールドワークを行った際に、参加者からは、市民の活動のおかげで用水路が維持されていると感動しました、水辺のありがたさを感じましたといった多くのコメントを頂きました。
- ・野草探し・草木染め・ガサガサ体験を行った際には、主催者として、「川に親しむきっかけは何でもよいが、川をきちんと理解し、楽しむ第 1 歩となればよい」と思いました。
- ・毎回 20～30 人程度しか集まらないので、今後は、水に興味がある人をもっと増やしていきたいと思います。

【会場からの質問】

Q：1 回のフィールドワークで何人の参加者が集まりますか？

A：20～30 人程度です。

Q：酢を製造している御社と水はどのような関係がありますか？

A：醸造会社にとって、良質な水の確保が必要であり、舟で粕酢を運ぶなど、これまで水の恩恵を受けてきました。そこで、水のことで恩返しをしたいと思い、水と人とのくらしに着目して活動を行っています。



発表中の後藤さん

(4) 行政の部：国土交通省京浜河川事務所（尾崎 武志係長） 「多摩川の川づくり」

【発表概要】

- ・河川整備計画の中の「多摩川流域リバーミュージアム」の取り組みについて、ご紹介します。多摩川をまるごと博物館にというコンセプトをもとに、水辺の楽校や情報のサテライトの設置、携帯端末を使用した情報発信を行っています。
- ・例えば、水辺の楽校では、子どもが自然に触れあえる機会の創出、自然愛護を目的に、アクセス路の設置やガサガサ体験などの川での活動を行っています。また、源流から河口まで、多摩川には様々な表情があり、流域内の水辺の楽校の学校同士で交流を行い、横のつながりをつくっています。
- ・市民と行政の交流の場を増やしたり、次世代の子どもに川での活動の経験を増やしていくといった、様々な活動を通じて情報を得て、今後のより良い整備へとつなげていきたいと思っています。

【会場からの質問】

- Q：多摩川の水質が改善してきた結果、水辺の楽校のような活動が盛んに行われるようになったと思いますが、今後の川づくりはどのようにお考えでしょうか？
- A：今後はさらに、川の情報も多く発信し、一般市民の方々が川に接する機会を増やしていきたいと思っています。また、「川の情報見える化」として、今後も「河川管理レポート」を作成していきたいと思っています。



発表中の尾崎さん



多くの参加者のみなさま

3.3 まとめ：佐山 公一（TB ネット）

今日は、多摩川の森林、水、まちづくりに係っている様々な立場の方々から発表がありました。今回のテーマである「広げてつなごう、川づくりの輪」を育めたと思います。各関係者から意見を出し合って、人だけではなく、動植物にとっても良い多摩川にしていきたいと思えます。



まとめを報告している佐山さん

3.4 閉会の言葉：船橋 昇治（国土交通省京浜河川事務所長）

本日は、雨の中、ご参加いただきましてありがとうございました。

市民、学生、行政の各活動は、それぞれ多摩川の活動の一部ではありますが、「多摩川が良くなってほしい」というのは共通していると思います。

川は、人と社会のつながりであると思います。多摩川をより良くするためには、多くのことを知る必要があるため、様々な人が連携して、お互いの強みを生かしていきたいと思っています。多くの方々の助けを受けながら、多摩川の将来へとつなげていきたいと考えています。

今後、河川整備計画の見直しを考える時期に来ていますので、みなさまの意見をお伺いしながら、進めていきたいと思っています。



閉会の言葉を述べる船橋所長

4. いい川づくり交流ひろば

二ヶ領せせらぎ館 1 階では、多摩川で活動する市民団体、学生、企業、流域の自治体、河川管理者がブースを出し合い、「いい川づくり交流ひろば」が開催されました。

当日は、あいにくの雨で、せせらぎ館前の広場に出展する予定のブースを、せせらぎ館内に移動しなくてはならない事態もありましたが、多くの方々のご来場のおかげで、賑わった交流会となりました。

～出展内容～

- ・みんなで作る多摩川地図
- ・多摩川流域で採れた食材で作った多摩川鍋
- ・防災食の試食(アルファ米 わかめご飯、炊き込みご飯)
- ・多摩川もの知り検定
- ・パネル展示：日野市環境情報センター、法政大学、明治大学、東京都市大学、京浜河川事務所、東京都、大田区、多摩市からパネルを出展



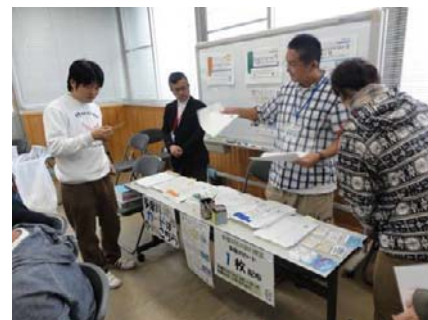
いい川づくり交流ひろば



受け付けの様子



多摩川鍋やヤマメ、アルファ米を食べるみなさま
(みなさまからおいしいと評判でした。)



もの知り検定
(必至に問題に挑戦していました。)



好きな場所を落とした多摩川地図
(参加者の方々は、他の参加者のお気に入りの場所も確認していました。)



パネル展示
(各団体の様々な活動が紹介されました。)

以上